2015.4.27　冨松

**ブロック要素・インライン要素とその相互変換**

**◇ブロック要素とインライン要素**

全ての要素は次に示すように大きく3つに分類できます。まず、**ブロック要素**は文書の骨組みとなる要素です。見出し（h1, h2, h3…h6）、段落（p）、リスト（ul,ol,li）、div、table などです。要素の前後に必ず **改行が入り**、ブロックを積んでいくような表示になります。

一方、**インライン要素**はブロック要素の中身として使われる要素です。a、b、span、 imgなどです。テキストの一部として扱われるので、要素の前後には **改行は入らず**、テキストのように横にずーっと流れていく表示になります。ただ、このうち**img 要素**は、文法上はインライン要素ですが、幅や高さを指定できるなどブロックレベル要素のイメージでも使われ、**インラインブロック要素**とも呼ばれます。

**◇displayプロパティ**

displayプロパティは、ブロック要素・インライン要素などの**表示形式を変換**するCSSプロパティです。指定方法は「display:block;」「display:inline;」「display:inline-block;」などです。表示形式を変換すると、どんな嬉しいことがあるのでしょうか。

例えば、リストでテキストを横に並べたいときは「display:inline;」、メニューの背景にもリンクを指定たいときは「display:block;」、画像を**任意の間隔で横に**並べたいときは「display:inline-block;」などが利用できます。下記のWeb ページは、これらを使ったときのご利益を判りやすく解説しています。

（参照）<http://taneppa.net/display-inline-block/>

**◇画像を任意の間隔で横に並べる例**

ul{

list-style-type: none;

margin: 0;

padding: 0;

}

li{

display: inline-block;

}

li img{

margin: 2px **10px** 0px;

}

サムネイル画像の  
左右のmargin

説明文付きの画像4つを、任意の間隔で横に並べる例を示します。画像やテキストなどのコンテンツを縦や横に並べるには、リストタグ「ul,li」が便利です。その際、「**ul**」は一般に右図のようにブラウザの「デフォルトスタイルシート」を初期化して使います。

また、「**li**」タグはブロック要素ですから、このままでは縦に並んでしまうので「**display:** **inline-block;**」と指定します。画像（img）には、上下左右に適当なmarginをとります。

このCSS指定に対応して、htmlソースは下図のように単純にimgを並べるだけです。下記の例は画像にリンクも張っています。

<ul>

<li><a href="w15020333.html"><img src="w150203s33.jpg"></a><br>ATCへ通ずる連絡路</li>

<li><a href="w15020334.html"><img src="w150203s34.jpg"></a><br>連絡路に広告が華やぐ</li>

<li><a href="w15020335.html"><img src="w150203s35.jpg"></a><br>連絡路よりATCを望む</li>

<li><a href="w15020336.html"><img src="w150203s36.jpg"></a><br>大阪府庁咲洲庁舎前</li>

</ul>

以上